農業への努力 その1

凡夫川にかかる二本樋

用水路の開発と二本樋

水田に水がほしいという人々の願いは強く、新しい用水路をつくる努力が村々で続けられました。

古郡氏3代の50年あまりの苦労と努力とによって「雁堤」が完成してからは、その東・南側の広い地域の村々に、根田堀や上堀・中堀・下堀などの用水路がひかれていきました。

こうした土木工事を行うために、郷土の人達は、和算を学び土地の開発や改良に役立てていったのです。

加島5千石として栄えた陰には、はかり知れない努力があったのです。

一方、富士山のすその地方にある厚原や伝法付近も、日照の害が多く、水が不足して困っていました。

今から800年程前、山梨県から移り住んだ植松兵庫之介信継という人は、潤井川から水を引くことを考えました。

そして、巾2㍍から5㍍、長さ6㌔の伝法鷹岡用水をつくったのです。

途中には、凡夫川という深い沢があります。長さが50㍍もある木で作った掛どい二本で用水を渡すことに成功しました。これが二本樋です。

それからは水を奪いあう「水あらそい」もなくなり、この用水路に沿って厚原、伝法などの村々は発展していったのです。

都市化はすすんでも…

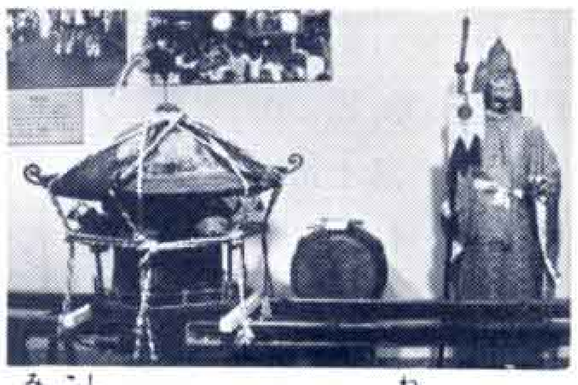
樋代官植松家の
子孫　植松卓穂さん
厚原西(58歳)

樋代官といわれた最後の人から数えて私が4代目になります。でも代々直系でないため昔のことはあまり伝承されていません。

これから都市化がすすむほど用水路の役割も変って来ると思いますが昔の人々の努力の遺産として残しておきたいですね。

市立博物館 展示物紹介

天王さんのみこしとてんぐ



御輿をかつぎ町内を練り歩く天王さん（祇園祭り）は、京都八坂神社の牛頭天王（スサノオノ尊）をまつっています。夏に向かって、悪い病気を防ぐことから始まりました。荒みこしの多い中で、本市場八坂神社のこれは、黒の漆塗りと六角形が特徴です。また、この天狗は、おかめひょっとこと共に御輿の先導をつとめました。

樋代官長屋門

植松家は代々樋代官として、鷹岡伝法用水の管理を行なってきました。表門であるこの長屋門は江戸末期の建立とされています。

寄贈をうけて移築復元し、当時の生活資料と共に展示しています。

久沢367の4
佐野千佳志さん

表紙のことば

つゆ空の6月28日、第1回富士市三福祉団体合同体育祭が、吉原小の校庭で開かれ400余人が参加しました。

この大会は、富士市身体障害者福祉会連合会等が、国際障害者年を記念して開いたものです。

競技は、100㍍競走や綱引き等16種目。車いす競走に出場した久沢　佐野千佳志さん　32歳は「私たちは、心や身体に何等かのハンデ・キャップを持っています。自ら努力することは勿論ですが、皆さんのご理解を…」と語ってくれました。

発　行・富士市役所　富士市永田61－1　☎51－0123
編　集・行政管理部広報広聴課

人　口　209,448人　男　104,795人　女　104,653人
世帯数　58,509　（6月1日現在）